

# 上手なプレゼン用スライドの作り方

学会発表, 卒論・修論発表, 雑誌会に向けて

研究を行って成果が出たとき、(もしくは出てなくても) 学会等で研究の**プレゼンテーション**を行うことになっています。どんなに良い研究結果であっても、それが他人に伝わらなければ全く意味がありません。プレゼンテーションを行うためには、そのための準備(スライド作成, 発表の練習)が必要ですが、どのように進めればよいかは最初のうちはわからないと思います。本スライドでは、その**手順**について概説します。

本スライドが、**スライド作成, 発表の助け**になれば幸いです。

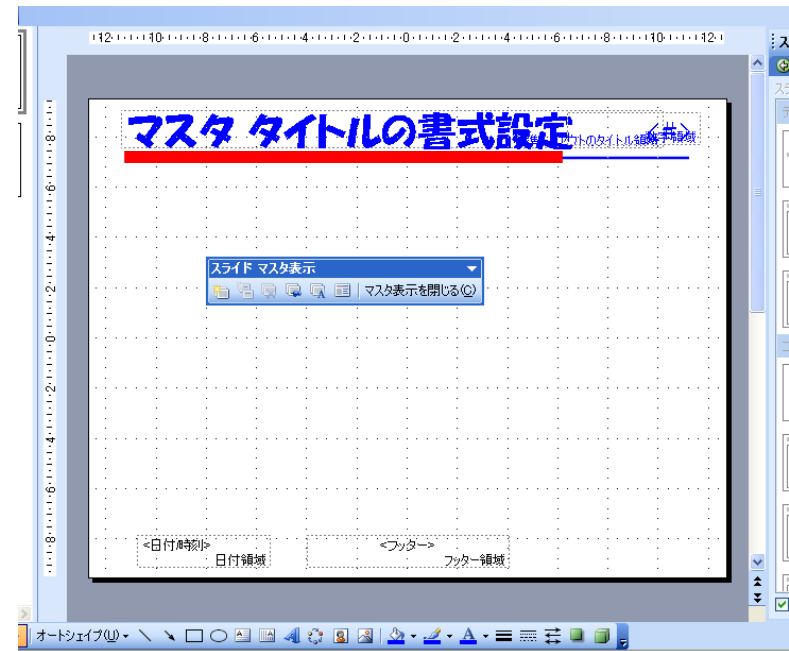
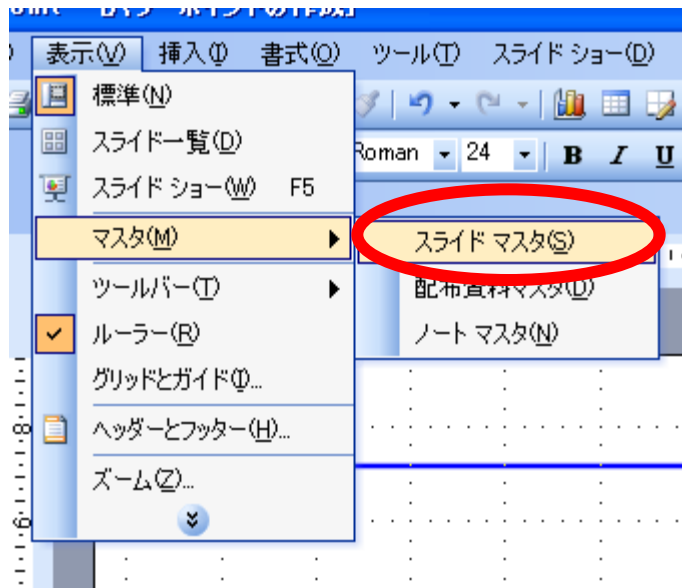
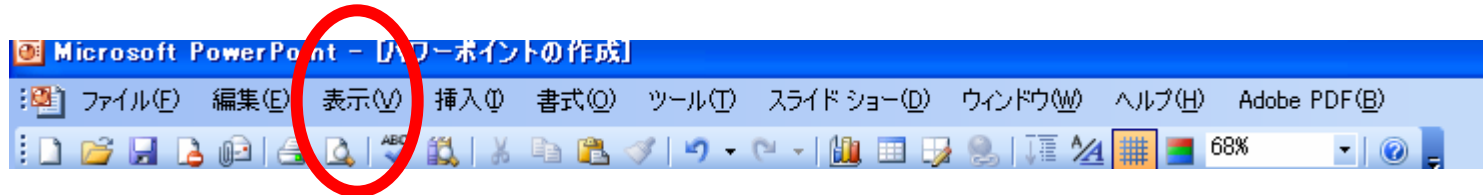
## 全体の流れ

1. 原稿などを元にスライドを作成する
2. 発表練習を行う
3. 人に聞いてもらう(わかりやすさをチェック)

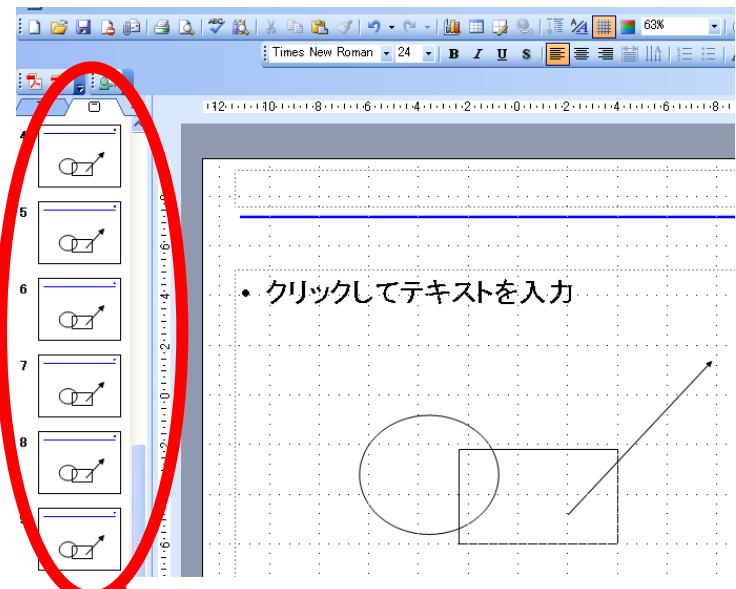
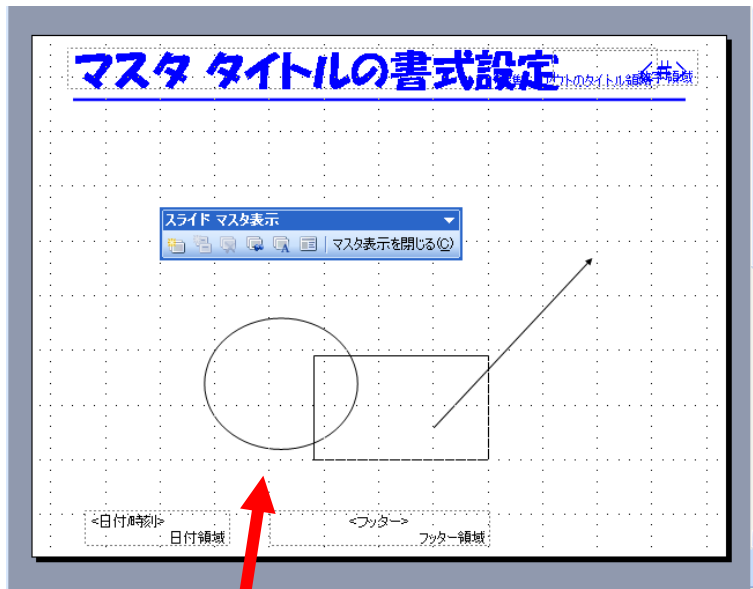
1. 原稿などを元にスライドを作成する
2. 発表練習を行う
3. 人に聞いてもらう（わかりやすさをチェック）

# スライドの作成 (パワーポイントの場合)

まずは、マスターを作成しましょう



ここで、マスタを設定



マスタに適切な絵を描くと...

すべてのスライドに同じ絵が！！

すべてのスライドで同じ図を載せたい場合や、  
スライドの構成をカスタマイズしたい場合に便利

何を発表するのか整理する！！

発表のための発表では意味がない

スライド作成時に心掛けること

1. 文字は**大きめ**に(小さいと後ろの人が読めない)
2. 「はじめに」と「まとめ」での**整合性**をとる
3. スライドとスライドの**つながり**を意識する
4. **各スライド**で伝えたいことをまとめる  
(1つのスライドで説明できることはせいぜい2個まで)

## フォント, 色の使い方に気をつけましょう

ゴシック

ポップ体

丸文字ゴシック

文字の大きさは24ポイント以上

24ポイント

28ポイント

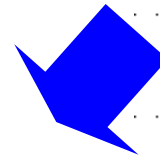
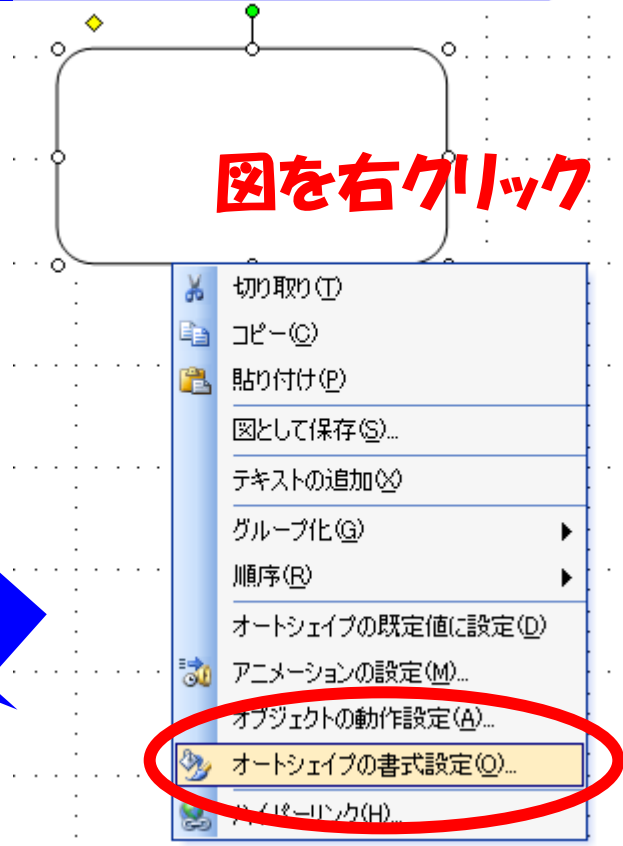
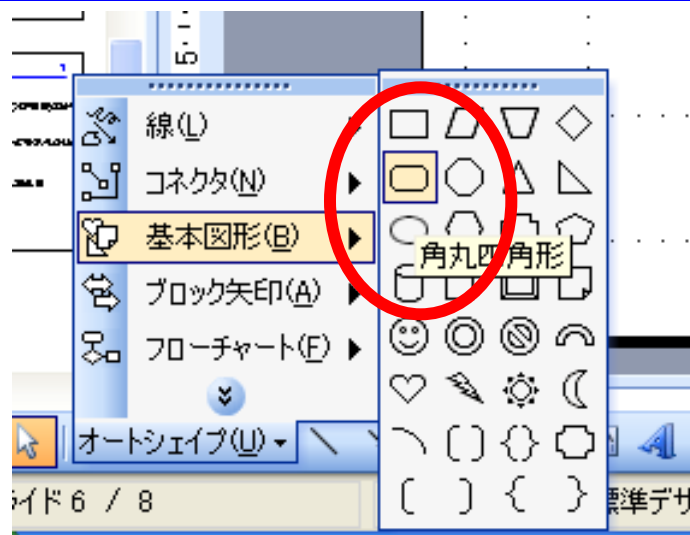
32ポイント

36ポイント

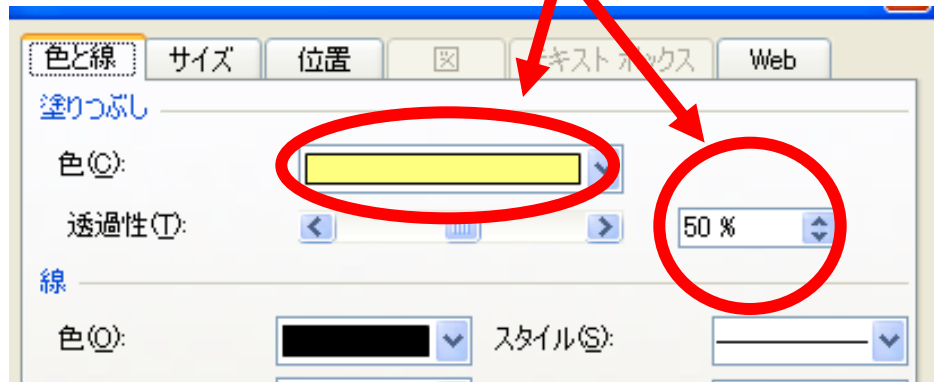
強調の度合い, 文字数によって  
使い分ける

色は, 黒, 赤, 青, 緑くらいで, ページに3箇所程度  
多すぎても見づらくなる

# 文字ハイライトの方法



変更



完成

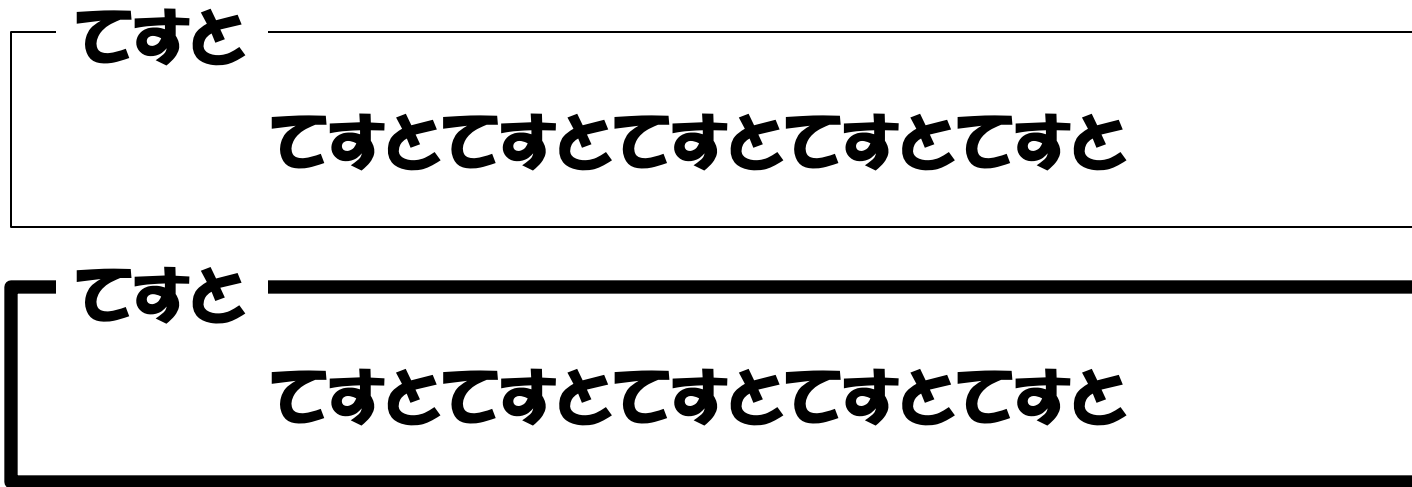
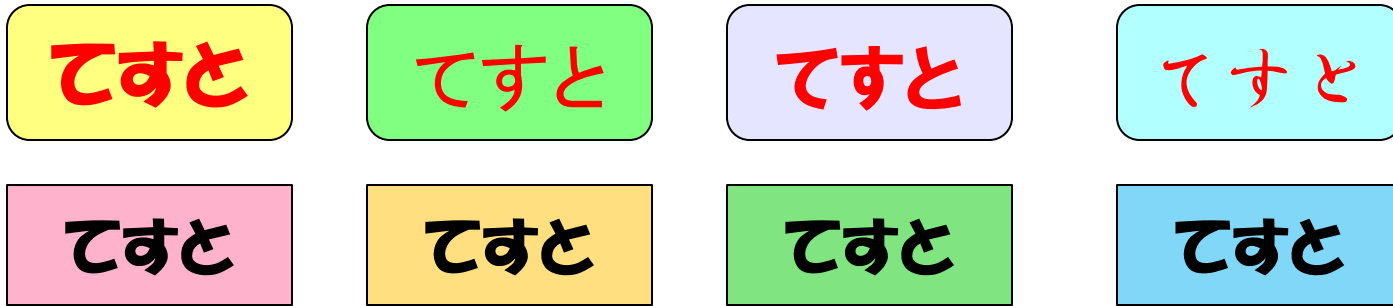


## ページ構成

1. このページで**何を言いたいか**を意識して、スライドを作成する
2. **ページ全体を見て**文字の大きさや、文字数を減らすべきか否かを考える
3. 聴衆の側から見て、文字だけでは理解できそうにないと判断すれば(この判断は難しい)、理解を助けるための**絵**を挿入する

(ところで、ぱっと見たときに**3. は読みやすいですか？**  
**文章は 1. や 2. 程度の分量にした方が無難です。**)

# 文字ハイライトの方法(例)



**どの文字にどのフォントを割り当てるか, どのサイズにするかで, 他人(聴衆)が受ける印象は大きく変わります.**

発表において1ページあたりの文字数は重要になります。短い時間(30秒)で終わるスライドなのに、ページいっぱいに文字を書いても全てを追うことができる人はいません。多くなりすぎた場合は、そのスライドで何が必要になるかを再び考え直し、無くてもスライドの説明が可能な文章を探して下さい。その文章を削れば、見栄えが良くなります。

**A**

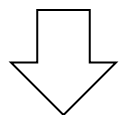
(文章Aを30秒で把握することができますか?)

## スライド作成時の心得

- ・1ページあたりの**文字数**が重要

聴衆は、短い時間で多くの文字を目で追えない

短い時間で説明するスライドなのに**説明しない文章**がいっぱい(になってる場合が多い)



説明しない文字を削る

- ・**見栄え**が良くなる
- ・聴衆が**全ての文字**を目で追える  
(発表の仕方が悪くても理解してもらえる)

A'

## スライドのページ数は8-10程度

### 内訳の例①

背景 : 2-3枚  
理論 : 3枚  
実験方法 : 1枚  
実験結果 : 1-2枚  
まとめ : 1枚

### 内訳の例②

背景 : 2-3枚  
理論 : 5枚  
シミュレーション : 1-2枚  
まとめ : 1枚

8分しかないので, 多く書いてもしゃべれなく  
ないます

1枚あたり30秒~2分程度

1. 原稿などを元にスライドを作成する
2. 発表練習を行う
3. 人に聞いてもらう（わかりやすさをチェック）

出だし「○○と題しまして、松永研究室の○○が発表させて  
頂きます。」

完成したスライドに対して**発表原稿**を作成する  
(最初はラフに作る, スライド, 原稿の修正はつど)

発表練習を**がむしゃら**に行う.

(初めて発表を行うときは50回くらい練習することが  
望ましい. 発表練習の中で試行錯誤してください)

10分×50回でも, せいぜい8時間程度です.

将来に渡ってのプレゼン能力が上がることを考えると  
たいした労力ではない.

1. 原稿などを元にスライドを作成する
2. 発表練習を行う
3. 人に聞いてもらう（わかりやすさをチェック）



**発表練習を他人に見てもらうと、よい練習効果が高いです  
(少ない練習時間でよい発表ができるため効率的です。)**

**見てもらう人: フレゼンがうまい先輩や先生**

**(フレゼンがうまいということは何が駄目かも指摘できる)**

**みてもらった人に対する感謝**

**全てを言われるがままに修正すべきではない**

**(人によって好みがある、あくまで発表者は自分、もし納得いく修正なら別)**

**繰り返しにないますが、発表をうまくできるか否かで  
研究結果に対する評価が変わってきます。**

**これらを参考に、よい発表になるよう願っています。**

## 参考URL

加納学先生（学会発表に関するアドバイス）

<http://manabukano.brilliant-future.net/document/advice-J.html>

山本裕先生（学会プレゼンテーションのためのガイドライン）

<http://www-ics.acs.i.kyoto-u.ac.jp/~yy/main-j.html>

## 高速でスライドを作成する方法

### スライドを作成する時間が少ないときどうするか？

STEP1：発表時間に合わせて白紙スライドを作成する（20分なら20枚程度）

STEP2：原稿において使っている図および実験結果などをスライドに貼り付けてページをまんべんなく埋める

STEP3：主結果に関連する式や説明文をスライド中盤部分に貼り付ける

STEP4：主結果との整合性を考慮しつつ、研究目的のスライドおよび結論のスライドを作成する

STEP5：研究目的のスライドに整合するよう研究背景のスライドを作成する

（最初のスライドから順番に作成すると、時間との兼ね合いで再調整を多く要しますが、上記の手順でスライドを作成すれば再調整が少なく短時間でスライドを作成できます。）